**一～三級審査会（実技・形）寸評**

教士七段　鈴木忠雄

期日　令和四年十二月四日（日）一二時三〇分審査開始

会場　川越運動公園総合体育館　サブアリーナ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

受審者　一五六名　（三級一一名　二級六〇名　　一級八五名）

合格者　一四六名　（三級一一名　二級五六名 一級七九名）

合格率　 九十・三％

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

コロナ禍の中、感染防止対策班を設置し安全な審査会ガイドラインの遵守で行われました。

コロナ禍で稽古の機会が極めて制約される中で、稽古に工夫を重ねた指導者のもとで、苦労され合格された方に心からお祝い申し上げます。残念ながら今回不合格となられた方は先生の指導をいただき次回に望まれることを願っています。

三級　四級より上手に出来る姿勢。手の内のしまり

はどうか。

二級　一級に準ずる級位で、試合稽古形式で立派に

できるか。

一級　試合稽古形式で、わざ、姿勢、発声、すなわち

気、剣、体の一致が備わりつつあるか、初段への資格へ移れるか。

の、審査基準で合否をさせていただきましたが、前

提となる所作、着装、竹刀の扱い方ができていない。

切り返しの足さばき（打突の「送り足」、受ける側の

「歩み足」）受ける側の歩み足が送り足になっている

などが見受けられました。

形　「木刀による剣道基本技稽古法」「 日本剣道形」

では、即席の組み合わせ、即座の実施ですので完璧

は期待できませんが、打突部位が曖昧で届いていな

い方が多くおりました。審査の為の形ではなく、形

稽古をもっともっと修業して、形のような竹刀さば

きを高めて欲しいと思います。審査員の機会をいた

だき、あらためて基本の大切を痛感しました。

今後の皆さんの益々の昇進を期待いたします。